

アメリカの大学におけるコメンズメントスピーチ(一)

J・K・ローリングとオプラ・ウィンフリー

小笠原 はるの

遠 藤 昌 子

一、コメンズメントスピーチ

アメリカの公の場には、今も昔もスピーチの世界がある。この傾向は、特にアメリカで著しい。スピーチには、壇上から多くの聴衆に向かって演説を行うものから、小さな会合で、穏やかな口調で語りかけるものまであり、そこに見られるのはさまざまな話し手による多様な語りかけの姿である。スピーチは、話し手の人間性や個性を具現したものであり、基本的な心情、思想、価値や信念が表現された表出形式といえる。また、語りの言語活動として、人が互いに何かを分かち合い、伝え合うコミュニケーション形態の一つでもある。

聴衆の心を動かし、感動を与えるスピーチには、話す目的に合った題材の選定、話す内容の効果的な構成、ことばの選択、そして人柄にふさわしい話し方がある。さらに、スピーチが行われる状況や場面、聞き手の興味や関心、スピーチの社会的・文化的影響も考慮されていなければならない。近年では、スピーチが直接的に目の前の聴衆に与え

るインパクトだけでなく、間接的な効果もはかりしれないものとなっている。インターネットの出現が契機となり、どこにいようと受け手は話し手が見えるようになってきた。無料動画配信サイトでスピーチの動画がアップロードされ、公開されるようになると、それまで聴衆が限定されていたスピーチも、当然グローバルに波及するようになった。

このような多大な影響力をもつスピーチ文化の現状をふまえ、本稿では、アメリカの大学における二つのコメンズメントスピーチを、翻訳を通して紹介する。

コメンズメントスピーチとは、卒業式の祝賀スピーチである。アメリカの大学では、卒業式の当日、マントに帽子を身につけた多くの卒業生とその家族や友人がキャンパスに集まり、盛大なセレモニーがとり行われる。そこで著名人を招いて、披露されるのがコメンズメントスピーチである。「卒業する」は英語で *graduate* であるため、卒業式は *graduation ceremony* (グラデュエーション・セレモニー) と呼ばれると思われるがちであるが、むしろその言葉より、*commencement* (コメンズメント) が一般的で、「始まり」「開始」「初め」という意味がある。大学は多くの学生にとって人生での通過点にすぎず、私たち人間の学びには、いつが卒業ということはありえない。したがって、卒業するということは、教育の完了ではなく、次のステップの学びをはじめることなのである。日本では卒業式というとかかを終える意味合いが強いが、アメリカでは新たな旅立ちを祝う積極的な気持ちが進められていることがわかる。

そのような意味を持つ卒業式において、社会や文化をリードする著名人が行うスピーチには、未来への指針とともに、生きるための理念を明言するものが多い。複雑な過去を持つ著名人が壇上に立ち、自らの経験から得たものについて話をし、それを卒業して

いく学生たちが聴くことは、彼らにとって素晴らしい導きとなりえる。また、苦しい局面を何回も乗り越えてきた人々の体験談には大きな影響力もある。

翻訳を意識的に差異に触れる手段としてとらえ、表現文化に新しい風を吹き込むという文化活動の一環と見なせば、このようなスピーチを翻訳・紹介することは、意義あることと考えられる。今回、取り上げるコメンズメントスピーチは一部であるが、コメンズメントスピーチのなかには、歴史に残る名スピーチも多い。近年では政治家としてはバラク・オバマ米大統領やアル・ゴア元米副大統領、社会活動家として有名なミュージシャンのボノ氏、経営者としてはアップル社の創設者スティーブ・ジョブズ氏、俳優ではトム・ハンクス氏などが記憶に残るスピーチを行った。翻訳を通して、それらを考察し、評価することは、スピーチ・コミュニケーション研究や文化研究に大きく寄与するものと考ええる。

本稿では、二〇〇八年に行われたJ・K・ローリングとオプラ・ウィンフリーのコメンズメントスピーチをみていく。まず、それぞれのスピーカーについての経歴、業績、社会活動を紹介し、次にスピーチの翻訳を試みる。【小笠原】

二、J・K・ローリングについて

はじめに、二〇〇八年ハーバード大学でのJ・K・ローリングのスピーチを紹介する。ローリングは、ハリー・ポッターシリーズを書いて、社会的に高い評価を得た英国の作家である。彼女は、生活保護を受けるシングルマザーであったのだが、作品の成功で数年後には英国でも上位の高額所得者になった。彼女のシンデレラストーリーは、若者に

希望と勇気を与えると考えられている。

(一) 経歴

J・K・ローリング(本名 Rowling, Joanne Kathleen)は一九六五年英国のウェールズで生まれた。伝記作家ジョン・スミスは、ローリングについて書かれた多くの伝記が彼女の半生を以下のようにまとめていっているという。

チップینگ・デールで生まれ、九歳までブリストルで暮らし、チェプスター近くの村に移り住み、コンプリヘンシブ・スクールに通い、エクスター大学で学び、母親の死を体験し、ポルトガルで英語を教え、結婚と出産を経験。その後英国に戻り、ハリー・ポッターを書いた。^{*1}

しかし本稿では、ローリング自身がコメントスピーチで言及する大学入学からハリー・ポッター第一作出版前後までを中心に概観する。

ハリー・ポッターが生まれるまで

ローリングは、一九八四年にオックスフォード大学受験に失敗した後、実家から近い名門エクスター大学に入学する。大学では古典とフランス語を学び、フランスに一年留学した。一九八八年の大学卒業後はフランス語と英語のバイリンガルセクレタリーのコースを修了し、ロンドンでさまざまな職業につくが、その一つはアムネステイ・インター

*1

ジョン・スミス(鈴木彩織訳)
『J・K・ローリング その魔法と
真実 ハリー・ポッター誕生の光と
影』メディアファクトリー、二〇〇
一年、九頁。

ナショナルでのリサーチアシスタントで、仕事はフランス語圏アフリカ諸国の人権被害者救済に関わることであった。

一九九〇年にロンドンでの仕事をやめ、大学時代のボーイフレンドが住むマンチェスターに移り住んだが、同年末に母親が四十五歳で多発性硬化症のために死去した。同時に、ボーイフレンドとの関係も破局を迎え、翌年、ローリングは「ガーディアン」紙に掲載された求人広告に応募してポルトガルで英語教師として生活を始めた。

一九九二年にポルトでポルトガル人ジャーナリストと結婚し、翌年には一女をもうけるが不仲になり、一九九三年には子どもをつれて英国に戻った。その少し前に父親が再婚してしまっていたために、ローリングは妹がいるエディンバラに住んだ。しかし、シングルマザーで無職だった彼女はすぐに経済的に逼迫し、生活保護と住宅手当を受けることになり、精神的にも深い鬱状態に陥った。後に彼女はこの時期が自分の人生で一番暗く辛い時期だったと述べている。

その後一九九四年には、生活保護受給は継続しながらも、短時間の秘書の仕事にすることができた。一九九五年には高い倍率を突破して、大学のフランス語教師資格取得課程に入学した。同年、生活保護の受給を返上し、正式に離婚した。一九九六年には教職課程を修了して、臨時教員としてフランス語教師の職についた。同年、スコットランド居住の作家に提供される奨励金八千ポンドを獲得している。

一方、この間も執筆活動は継続していた。六歳のときに処女作「ウサギ」を書いてから、常に作品を書いていたローリングだったが、ハリー・ポッター七作シリーズの構想を抱いたのは一九九〇年のことだった。一九九六年に一作目を書き終わり、出版にむけ

てエージェントも見つかった。そして、十二社に出版を拒否された後、彼女の作品は一九九七年にロンドンの出版社から発行されることになった。

ハリー・ポッターを出版

一九九七年七月に『ハリー・ポッターと賢者の石』がハードカバーとペーパーバック両方で出版されたが、ハードカバーの出版部数はわずか五百部だった。無名の作家のファンタジー小説だったので派手な宣伝もされず、新聞に好意的な書評が載ったぐらいだった。しかし、出版されて三日後に状況は一変する。米国の出版権に十萬ドルという値がついたのだ。そのことが話題となり、本に注目が集まった。その大金を手にするようになる作家が最近まで生活保護を受けていたシングルマザーであることも話題となった。本は海外でも翻訳され、世界的なベストセラーになる。その後、『ハリー・ポッターと秘密の部屋』、『ハリー・ポッターと秘密のゴブレット』、『ハリー・ポッターと不死鳥の騎士団』、『ハリー・ポッターとなぞのプリンス』、『ハリー・ポッターと死の秘宝』まで、全七巻が二〇〇七年までに出版された。なお、日本では松岡祐子氏の翻訳により、静山社から全巻が刊行されている。BBC放送は二〇〇七年七月二十三日の第七作の発売日に、第六作まで世界総売上は三億二五〇〇万冊で、第七作は発売日に英米だけで千百万冊販売されたと報じた。^{*2}

(二) 社会的活動

ローリングは、いくつかの社会活動を支援している。その一つは、シングルペアレン

*2

ハリ・ポッター総売上冊数
C 放送

<http://news.bbc.co.uk/go/pr/fr/-/2/hi/entertainment/6912529.stm>
(二〇〇九年四月一日取得)

トの支援活動である。^{*3} ローリングは自身の公式サイトで「シングルペアレントを家長とする家庭の六十パーセントが貧困にあえいでいる」と語り、二〇〇〇年に設立された「シングルペアレント・ファミリーのための全国協会」の親善大使の仕事を行っている。その背景には、自分が二十代後半にシングルマザーとして週七十ポンドの生活保護手当で、娘と生活した実経験がある。また、政治的には労働党支持であり、貧困家庭や貧困児童に対する福祉政策を評価して二〇〇八年には百万ポンドを同党に寄付した。^{*4}

さらに、母親が患った多発性硬化症の研究団体・広報団体などへの支援活動にも関わっている。二〇〇六年には、スコットランド多発性硬化症協会へ約二十五万ポンドを寄付し、これによって、エディンバラ大学に多発性硬化症研究センターが設立された。^{*5}【遠藤】

三、J・K・ローリングのコメントスピーチ

(二〇〇八年六月五日、ハーバード大学にて)^{*6}

失敗からの贈り物・共感からの贈り物

J・K・ローリング

翻訳 遠藤昌子／小笠原はるの

ファウスト学長、ハーバード大学理事の皆様、教職員の皆様、保護者の皆様、そして

*3 シングルペアレント支援 J・K・ローリング オフィシャル・ホームページ
<http://www.jkrowling.com/textonly/en/links.parent.cfm> (二〇〇九年四月一日取得)

*4 労働党寄付 BBC放送
<http://newsvote.bbc.co.uk/mpapps/pagetools/print/news.bbc.co.uk/1/hi/uk.politics/7626589.stm> (二〇〇九年四月一日取得)

*5 多発性硬化症支援 J・K・ローリング オフィシャル・ホームページ
<http://www.jkrowling.com/textonly/en/links.ms.cfm> (二〇〇九年四月一日取得)

*6 J. K. Rowling, "The Pringe Benefits of Failure, and the Importance of Imagination," (Harvard University Commencement Address, June 5, 2008) Harvard University Gazette Online.
<http://www.news.harvard.edu/gazette/2008/06/05/99-rowling-speech.html> (二〇〇八年六月二十日取得)

卒業生の皆様。

最初に、お礼をいわせてください。ありがとうございます。というのは、ハーバード大学の学位授与式で式辞を述べることになったことへの恐怖と緊張感で何週間も食べ物のがのどを通らず、おかげで体重が減ったのです。こんないいことってあるんですね！さて、深呼吸をして、真紅のハーバードの垂れ幕を横目に、ここは世界最高の教育を受けたハリリー・ポッターたちの集会だと思ふことにしましょう。

学位授与式で式辞を述べることには大きな責任を伴う——自分の卒業式を思い出すまではそう思っていました。私の卒業式で、式辞を述べたのは、著名な英国の哲学者メアリー・ワノーックでした。彼女の式辞を思い出すことは、この式辞を考える上で大変役に立ちました。なぜなら、私は彼女が話したことを何一つ覚えていなかったのです！ほっとしました。私の式辞のせいで皆さんが前途有望な将来を捨てて、血迷ってハリリーになろうと思ってしまうこともないでしょう。もし皆さんが将来、このハリリーの話だけでも覚えてくれたら、私はメアリー・ワノーックよりもずっとよいスピーチをしたということになりますよ。一つの話だけでも覚えていくれたら、それで十分です。

さて、今日皆さんに何を話すべきか、散々悩みました。卒業から二十一年経って、何か役に立ちそうなことを伝えられるか。

二つのことが思い浮かびました。皆さんの門出を祝うこのすばらしい日に、まず、失敗することについてお伝えしたいと思います。それから、皆さんが社会に羽ばたこうとしている今、共感することがいかに大切なのかをお話しします。

はなむけの言葉として、共感とはかく、失敗を持ち出すのは、場違いだと思われる

かもしれませんが、聞いてください。

四十二歳の今、卒業式のころの二十一歳の自分を思い出すと少し辛くなります。今のちょうど半分の年齢だった頃、自分の目指していたことと両親の期待との間で悩んでいました。

私が唯一したかったこと、それは小説を書くことでした。しかし、両親は、夢ばかりでは家のローンも組めないし、年金も貰えないと思っていました。二人は貧しい家庭環境で育ち、大学を出ていませんでした。

両親は、私が就職に有利な学部に入ることを望んでいました。一方、私は英文学を勉強したいと思っていました。結局、私は妥協して外国語を専攻することにしました。でも、入学のための引越しが済んで、両親の車が角を曲がって視界から消えたとき、私はドイツ語から逃げ出し、古典文学の教室へ駆け出していったのでした。

古典文学を専攻していると両親にいったかどうか覚えていません。両親は卒業式で始めて気づいたかもしれません。会社でVIP専用トイレで用を足すことを目指すなら、あらゆる学問の中でギリシャ神話ほど役に立たないものはないでしょう。

ただ、ここではっきりさせておきたいのですが、両親が実用的な学問を学ばせたいと思っただけを責めているわけではないのです。自分の望まない方向に導こうとする親を責めているのは若いときだけです。人生の舵を取れる年齢になれば全ては自分の責任になります。それに、娘が将来経済的に困らないようにと願うのは、親にとってごく自然なことです。育った家は貧しく、わたしも貧しさを経験したので、それが人間性を高

めてくれるようなものではないと知っています。お金がないと不安ですし、ストレスもあります。鬱になることもあります。貧乏ゆえに恥ずかしい思いをしたり、苦勞するところがたびたびあるものです。努力して貧しさから抜け出すのはいいことですが、貧乏自体を美化するのは愚かなことです。

私が皆さんぐらいのころ、一番怖かったのは貧乏ではなく失敗でした。

そのころ、私は大学の勉強に熱意もわかず、ほとんどの時間をカフェに座って小説を書いて過ごしました。講義にはめったに出ず、要領よく試験に受ければ、それだけで成功だと私も仲間も思っていました。

皆さんが若くて、優秀で、立派な教育を受けたからといって、これまで挫折して、辛い思いをしたことがなかったとは思いません。才能があっても、知性があっても、運命は気まぐれで、試練をもたらします。皆さんの人生がただ穏やかで、満たされていたとはこれっぽっちも思っていないです。

そうはいっても、ハーバードを卒業する皆さんは、あまり失敗に慣れていないのではないのでしょうか。成功を望むのと同じほど、失敗を恐れているのではないのでしょうか。ずっと優秀だったので、ひよっとすると普通の人なら良くやったと思えるようなことでも、皆さんにとっては失敗だと思ってしまうかもしれません。

結局のところ、何が失敗かは一人一人が決めるべきです。しかし、私たちは世間で失敗だとされている基準を受け入れがちです。そして、そんな一般的な基準からすると私の卒業後の七年間は大失敗だったといえます。結婚はすぐに破綻し、片親で娘を育てながらも、仕事はなく、ホームレスの一步手前で、イギリスにおいてはどん底の生活でし

た。両親が怖れていたこと、そして私自身も怖れていたことが現実になってしまったのです。世間的な尺度でいえば、誰よりもひどい失敗でした。

私はここで、失敗は楽しいというつもりはありません。あのころの私の人生は暗く、皆さんご存知のおとぎ話のようなサクセス・ストーリーが待っているとは思えません。この暗いトンネルがどこまで続くか見当もつかず、出口にはいつまでたっても光がさすことはありませんでした。

でしたら、失敗の良さなどどこにあるのでしょうか。答えはシンプルです。失敗は本当に必要なことが何かを教えてくれるのです。世間の基準に合わせようとすることをやめて、ありのままの自分を受け入れられるようになります。自分にとって大切だと思うことだけに、全ての力を注ぐようになります。もしほかの事で成功してしまっていたら、本当に自分がやりたかったことをしようとは思わなかったでしょう。私は自由になれたのです。それまで一番怖れていたのが失敗することでしたが、もう失敗してしまっただのです。それでも私は生きていて、愛する娘がいて、古いタイプライターと壮大な物語がありました。どん底から人生をやり直したのです。

皆さんは私のようなひどい失敗はしないかもしれませんが、誰の人生にも失敗はつきものです。すべてが上手くいくなんてありません。失敗しないよう始終びくついて暮らしているのなら、生きていないのと同じです。そんな人生はもとから失敗です。

失敗によって私は、試験に合格したのでは得られない本当の自信を得ました。自分を知ることが出来ました。失敗しなければわからないままでした。思っていた以上に意志が強く、実行力があつたのです。それに、かけがえのない友人が存在することにも気づ

きました。

失敗から這い上がり、自分が成長したと実感したとき、どんなことにも自信を持てるようになります。試練を受けて初めて、自分を知り、他人の支えがあることを知るのです。そのような経験こそが、失敗の力であり、学歴よりも価値あるものなのです。

もし、タイムマシンがあったならば、二十一歳の自分にこう伝えます。幸福な人生とは、手に入れたものの数でもなく、成功した回数でもありません。履歴書が人生そのものではないのです。私の年代以上になると、それを混同している人がたくさんいます。人生とは困難で複雑で、誰も思い通りにはいかないものです。それをありのまま受け入れると、人生の荒波を生き抜くことができると思います。

さて、二番目のテーマは想像力の大切さです。私の人生をやり直す上で、想像力が大きな役割を果たしたから、このテーマを選んだと皆さんは思うかもしれませんが。しかし、それだけではないのです。もちろん、私は子どもにおとぎ話を聞かせることがどんなに大切か、これからも主張していきますが、私がいいたいのはもっと広い意味での想像力です。想像力とは、存在しないものを心に思い描き、発明や発見を生み出す人間だけに備わった能力だけをさすものではありません。想像力を働かせると、私たちは経験を分かち合ったことのない人にも共感することが出来るのです。

ハリー・ポッターを書く前の二十代前半に大変貴重な経験をしました。その経験は、生計を立てるためにしていた、ロンドンにあるアムネスティ・インターナショナル本部での調査の仕事で得たものです。当時、昼休みに職場を抜け出して小説を書いていたの

ですが、後にハリー・ポッターを書くときにもアムネスティの経験が役立ちました。

私は自分の小さなオフィスで、独裁政権国家からひそかに持ち出された手紙を読んだことがあります。走り書きでした。発覚したら投獄されることを覚悟で、誰かがそこで起こっていることを世界に知らせようとしたものです。痕跡もなく行方不明になった人たちの写真を見たこともありました。かすかな手がかりを求める家族や友人からアムネスティに送られたものでした。また、拷問を受けた証言を読んだことも、拷問で受けた傷の写真を見たこともあります。即決裁判や処刑、誘拐やレイプを目撃した人からの手書きの訴え状を開封したこともありました。

同僚の多くは、政治犯として投獄されたり、故郷から追われたり、亡命したりという過去を持っていました。危険と知りながらも自国政府の考えに同調しなかったからです。アムネスティには情報を提供したり、生き別れた人の消息を尋ねに来たりする人たちもいました。

私はある一人のアフリカ人のことを決して忘れません。私と同じ年頃でした。自国で拷問を受け精神を病んでいました。自分に加えられた残虐な暴行をビデオカメラに向かって話しながら、身体の震えがおさまりません。私よりも三十センチも背が高いのですが、まるで子どものような華奢な身体をしていました。彼を地下鉄まで送ったとき、人生を無残に打ち碎かれたその男性は、私の手を優しく握り締め、私の将来の幸せを願ってくれたのです。

一生忘れられないことがあります。あるとき、誰もいない廊下を歩いていたところ、突然、閉ざされたドアの向こうから、これまで聞いたこともない、悲痛と恐怖に満ちた

叫び声がありました。ドアが開いて、調査員が顔を出し、私にいいました。「急いで暖かい飲み物を持ってきて！」中にいたのは若い男性でした。公然と政府を非難した報復として、彼の母親が捕らえられ、処刑されたというニュースを調査員から告げられたところでした。

二十代前半を過ごしたアムネステイで、他国の現実を知りました。民主主義で選ばれた政府のもと、弁護士を雇って裁判を受けられるのは、信じられないほど幸運だとわかったのです。

人間が権力を得てそれを保持するために、同じ人間にどれほど酷いことをするか、毎日目にしました。見たり、聞いたり読んだりしたことが、夢に出てくるのです。それは文字通りの悪夢でした。

しかし、一方で、私はアムネステイで、それまで知らなかった人間のすばらしさにも気づきました。

拷問の被害者や囚人のために、多くの人たちがアムネステイで活動していました。被害を受けた経験がなくても、他人を思いやる心が、多くの人を巻き込む運動になり、人命を救い、囚人を釈放する力になりました。安全で人権が保障されているごく普通の人たちが、見ず知らずの、会うこともない赤の他人を救うために大勢集まってきたのです。その一端に参加したことは、人生の中でもっとも衝撃的で、刺激的なことでした。

人間は、地球上の他の生物とは違い、自分が経験しなかったことを学び、理解することが出来ます。他人の心を思いやり、他人の立場を理解する力を持っているのです。

もちろんこの力は、ちょうど私の作品に出てくる魔法のように、良いことにも悪いこ

ともにも使うことが出来ます。他人を理解し、同情するのと同じように、他人を操ったり、支配することも出来ます。

また、想像力をまったく働かせようとしたくない人もたくさんいます。そのような人たちは自分の居心地のよい世界に安住し、他の人生を歩んでいたらどうだっただろうとは、考えもしないのです。悲鳴に耳をふさぎ、牢獄を覗こうともしません。自分に直接関係のない他人の苦しみを感じたり、知ろうともしないのです。

そんな風に生きられたら楽な気もしますが、他人の苦しみから目をそらしてもやはり悪夢を見るのではないかと思えます。他人と関わらずに自分の殻に閉じこもって生きていても、人一倍恐怖心を持つはずです。壁を作って、他人を思いやろうとしない人は悪夢のモンスターを見るのではないかと思えます。

他人の苦しみに鈍感でいる人は本当にモンスターを生み出してしまいかもしれません。自分が悪に加担しなくても、無関心でいることでモンスターと共謀してしまうのです。

何かを求めて十八歳のときに足を踏み入れた古典文学の世界で、学んだことがあります。ギリシャの作家であるブルタルコスが書き残した次の言葉です。

「人間が内的に達成したことは、現実をも変える」

この驚くべき箴言は、私たちの人生の中で毎日何千回と繰り返し証明されています。この言葉に込められているのは、私たちが外の世界とのつながりを絶つことは出来ず、世に存在する限り、必ず他人の人生に関わって生きているということなのです。

ここで皆さんにうかがいます。二〇〇八年度ハーバードを卒業される皆さんは、どのくらい他人の人生に関わって生きていくのでしょうか。皆さんには知性や勤勉さがあり、優れた教育を受けていますから、特別の立場を与えられ、責任も伴います。アメリカ人というだけでも特有の立場です。卒業生の皆さんの多くは、これからも世界で唯一の超大国であるアメリカで活躍することになるでしょう。皆さんが誰に投票し、どんな生き方をし、どんな事に抗議をし、どんな圧力を政府にかけるか、これら全てはアメリカ国内だけではなく、全世界に大きな影響を与えるのです。皆さんにはそのような力があり、責任もあります。

もし、皆さんが自分の地位や影響力を使って、声なき人のために声を上げるならば、もし皆さんが力を持たない人にも共感することが出来るならば、もし、皆さんが地位を持たない人たちの立場にたって考えることが出来るならば、皆さんに感謝するのはご家族の方だけではありません。何百万の人たちが皆さんのおかげで、現実がよい方向に変わったことを感謝するでしょう。世界を変えるのに、魔法の力などありません。必要な力は皆さんに備わっています。その力とは皆さんの想像力です。

私のスピーチも、そろそろ終わりです。最後にひとつ述べさせてください。二十一歳の卒業式で一緒だった友人たちは生涯の友になりました。私の子どもたちをかわいがってくれ、困ったときには頼りになる存在です。友人の名前をハリー・ポッターに出てくる死喰い人の名前として使っても、私は訴えられませんでした。卒業式で、私たちは深い友情と、二度と戻らない日々を一緒に過ごしたという思い出で固く結ばれました。そ

してもちろん、一緒に写真におさまっているわけですから、誰かが首相に立候補したら、誇らしく思うことでしょう。

そのようなわけで、皆さんにも親友と呼べる友人がいればと思います。そして、明日になって、たとえ私の言葉を一言も覚えていなくても、セネカという古代ローマ人の言葉覚えておいてください。就職に有利な道を選ばずに、古典を勉強しているときに学んだ古代の知恵です。

「人生は物語と同じである。大切なのは長さではなく、内容である。」

皆さんが素晴らしい人生を送ることを願っています。

ありがとうございます。

四、オプラ・ウィンフリーについて

次に紹介するのは、二〇〇八年スタンフォード大学でのオプラ・ウィンフリーのスピーチである。

現代外国人名録二〇〇八年版はオプラ・ウィンフリーの職業をテレビ司会者、テレビプロデューサー、女優と紹介する。彼女の日本での知名度は高くないが、アメリカでは非常に有名である。例えば、一九九八年には、世界最大の英文ニュース誌タイムの「100 most Influential People of the 20th Century (二十世紀でもっとも影響力の大きい百

*7

オプラ・ウィンフリー『現代外国人名録』内外アンシエーツ、二〇〇八年、一〇五頁

人)に選ばれ、二〇〇四年から二〇〇八年まで同誌の100 Most Influential People in the World (世界でもっとも影響力の大きい百人)に連続して選ばれている。また、有力経済誌フォーブス・グローバルは毎年七月に「The Celebrity100 (有名人百人)」という特集を組み、収入だけではなくその発言や行動が社会的に強い影響力を持つ有名人をランク付けする。オプラは二〇〇七年、二〇〇八年に同誌で一位にランクされている。ちなみに二〇〇八年の二位はゴルフ選手のタイガー・ウッズで、以下、女優のアンジェリーナ・ジョリー、シンガーソングライターのビヨンセ・ノウルズ、サッカー選手のデビッド・ベッカムの順であった。人種差別の根強い南部で育った黒人女性である彼女の成功は、新時代のアメリカンドリームを体現するものと考えられている。

さらに、アメリカにはオプラが提案して一九九三年にクリントン政権下で立法化された「Oprah Bill (オプラ法案)」がある。これによって児童虐待で有罪判決を受けた人物が全米データベースで即時に検索できるようになった。¹⁰この法案提出の動機は、オプラ自身が子供時代に性的虐待を受けた経験であった。オプラが自分の性的虐待経験を公的な場で語ったことは衝撃的であったが、この問題に全米の関心が集まり、強い社会的影響があり、なおかつ虐待経験のサバイバーであるオプラに対する社会的評価が高まった。ここではオプラの誕生からの経歴を概観する。

(一) 経歴

誕生から青年期まで

一九九七年、ライフ誌のインタビューで、オプラは子供時代の経験をこう語っている。

* 80 - a

The most influential people, 2007, *Time Magazine*

http://www.time.com/time/specials/2007/time100walkup/article/0,28804,1611030_16124,11009年四月一日取得

* 80 - b

The most influential people, 2008, *Time Magazine*

http://www.time.com/time/specials/2008/article/0,28804,1725112_1726934_1726935_00.html (11009年四月一日取得)

* 80 - a

The Celebrity 100, 2007, *Forbes Global*

http://www.forbes.com/lists/2008/53/celebrities08_Oprah-Winfrey_0027.html (11009年四月一日取得)

* 80 - b

The Celebrity 100, 2008, *Forbes Global*

http://www.forbes.com/lists/2007/53/07celebrities_Oprah-Winfrey_0027.html (11009年四月一日取得)

* 10 - a

President Steps Up Anti-Crime Drive, *New York Times* Dec. 21,

自分が愛されていると誰からも言われたことがなかった。一度も、一度も、一度もなかった。読書をして賢い女の子といわれるときだけ、自分が認めてもらっている気がした。そんなときだけだった。人に愛されていると感じることが出来たのは。

(原文英語、遠藤訳)

オプラは一九五四年一月にミシシッピ州コソコウスで生まれた。十代で未婚だった両親は子供の養育を祖母の手に委ねたので、オプラは誕生直後から祖母の農場で育てられた。六歳から十三歳まではミルウォォーキーの母のもとで生活するが、この期間九歳の頃に従兄弟にレイプされ、その後も複数の親族による性的虐待を受けた。一九六七年、彼女は十三歳で家出をして補導されるが、児童保護施設が満所であることが出来なかった。そのため、ナッシュビル在住の父親と生活することになった。このころ、オプラは妊娠七ヶ月で、十四歳で出産した。しかし、早産で生まれた子供は数日後に死亡してしまふ。子供を失ったことで、オプラは人生をやり直す機会を手に入れたと感じたと後に語っている。その後のナッシュビルでの父親との生活は規律の整った安定したものであった。

一九七一年高校在学中にミス・ブラック・テネシー、また、ナッシュビルの *Miss Fire Protection* (ミス防火) に黒人として初めて選ばれることになった。同時期に、同地のラジオ局 *WVOL* でニュース原稿を読む仕事を始めた。同年、テネシー州立大学に入学し、コミュニケーションと演劇を専攻することになった。

1993

<http://www.nytimes.com/1993/12/21/us/president-steps-up-anti-crime-drive.html?n=Top/Reference/Times%20Topics/Subjects/C/Child%20Abuse%20and%20Neglect&sc=1&sq=President%20Clinton%20Signed%20the%20Child%20Protection%201993%20December%2021&st=ese> (1100
* 10 - b)

[Oprah to ask viewers to support Senate bill, ABC News Aug 9, 2008](http://www.oprah.com/news/9908/553033.html)
<http://www.abc3340.com/news/stories/0908/553033.html> (1100
* 10 - c)

オプラ・ウィンフリー オフィシャルサイト
http://www.oprah.com/article/pressroom/oprahbio/20080602-orig_oprahbio57.00.html (1100
* 11
九年四月一日取得)

A Life In Books, Life Magazine,
September, 1997, p.44-60

ニュースキャスターからニュースショー司会者へ

一九七三年、オプラはナッシュビルのWTVFテレビ局で、黒人初のリポーターになり、続いて最年少で同局のニュースキャスターになった。一九七六年にはポルティモアのWJTテレビ局のキャスターの職を得、一九七八年には同局のニュースショー〈People are Talking〉の共同司会者となった。これが現在のオプラの原点である。

一九八四年には、シカゴのWLSテレビ局に移り、人気の翳っていたニュースショー〈AMシカゴ〉の司会者となった。この番組を短期間で人気のあるニュースショーにしたので、翌一九八五年には、番組名は「オプラ・ウィンフリー・ショー」に変更された。ゲストのことをあらかじめ調べずに、ぶっつけ本番で話をする独特なスタイルで話題をよび、一九八六年からは全国放送されるようになる。同時期に、アリス・ウォーカー原作の映画《カラーパープル》に出演し、一九八六年アカデミー助演女優賞にノミネートされた。同年、映画制作会社ハーポ社を設立、オーナー兼プロデューサーになった。一九九六年には番組で本を紹介するブッククラブを開始、紹介された本はどれもたちまちベストセラーになるほどの影響力を持っている。二〇〇〇年には女性向け月刊雑誌『ジ・オプラ』を発行し始める。ニューヨーク・タイムズ紙（二〇〇八年五月二十六日）によると、二〇〇七年の発行部数は約二百四十万部だったという。^{*12}

(二) 社会的活動

オプラは「オプラ・ウィンフリー財団」を設立し、女性、児童、家族の福祉と教育を中心とした社会活動を行っている。自分が青年期に経済的困難を経験したことから、貧

* 12

A Few Tremors in Oprahland, New York Times, May 26, 2008
<http://www.nytimes.com/2008/05/26/business/media/26oprah.html?scp=1&sq=%20the%20few%20tremors%20in%20oprahland&st=cse> (二〇〇九年六月一日取得)

困窮家庭の子供たちに奨学金を供与している。また、アフリカの児童支援にも力を入れ、クリスマス時期に孤児院などで生活する子供たちに多くのプレゼントを贈り、現地の約六十の学校に図書館を寄贈したことが知られている。二〇〇〇年にネルソン・マンデラ氏と会談を持ったことを契機に、二〇〇七年には南アフリカに女子教育の学校を設立している。政治的活動では民主党の支持者として知られている。二〇〇八年の大統領選挙の際にも、前年二〇〇七年五月にはオバマ氏への支持を表明し、同年末にカリフォルニアで三百万ドルの選挙資金を集め、遊説に同行するなど、オバマ氏の勝利に多大な貢献をしたとABCニュースで報じられた。【遠藤】^{*14}

五、オブラ・ウィンフリーのコメントスピーチ

(二〇〇八年六月十五日、スタンフォード大学にて)^{*15}

思いやり・失敗・幸せ探し

オブラ・ウィンフリー

翻訳 遠藤昌子／小笠原はるの

ヘネシー学長、理事のみなさま、教職員のみなさま、ご家族のみなさま、そして卒業生のみなさま、こんなすばらしい日に呼んでくださってありがとうございます。

まずはちょっとした秘密を打ち明けます。今年の卒業生のカービー・パンプスのこと

* 13

バラク・オバマ支援、バラク・オバマ オフィシャル・ホームページ
http://www.barackobama.com/media/2007/12/10/how_oprah_helped_to_build_the.php (二〇〇九年四月一日取得)

* 14

Oprah Winfrey Present Barack Obama, *ABC News*, Dec 7, 2007
<http://abcnews.go.com/print?id=3965092> (二〇〇九年四月一日取得)

* 15

Oprah Winfrey, "An Edited Transcript of Oprah Winfrey's Speech at Stanford's Commencement Ceremony, Sunday, June 15, 2008," "Oprah talks to graduates about feelings, failure and finding happiness," *Stanford Report*, June 15, 2008
<http://news.stanford.edu/news/2008/june18/come-061808.html> (二〇〇八年十月十七日取得)

です。わたしが名づけ親で、ヘネシー学長に卒業式のスピーチを依頼されたときは、うれしくて興奮しました。カービーが入学してから初めてキャンパスに来させてもらったのです。

カービーは賢い子です。最初に会った人にはオプラの知り合いだと話さないのです。有名人の知り合いではなく、彼女自身を見てほしいというのです。彼女が最初にスタンフォードに来て、母親と一緒に新入生オリエンテーションに参加し、みんなに歓迎してもらっていたとき、まわりが騒然となりました。

「わー、ゲイル・キングだ！」といわれ、カービーが「ええ。うちのお母さん」というと「ってことは、あなたオプラ知ってるの」そしたら、彼女は「まあね」といったそうです。

「まあね」？ わたしは「まあね」なのっていい返しました。みんなに写真をメールしてあげたいくらいです。わたしが四つん這いでお馬さんになって、カービーが乗っている写真。わたしはカービー・バンブスを「まあね」以上に知っています。四年たつてやっとカービーの学生寮の部屋を見せてもらえます。一度見てみたかったです。カービーはわたしの自慢です。生理学と心理学の学位を取って卒業するのよね、カービーブーちゃん！ ね、わたしたち仲良しでしょ。

カービーが卒業できるのは両親とお兄ちゃんのウィルのおかげだと思います。わたしは何もしてあげられなかったけれど、この数週間は、ことあるごとに「スタンフォードに行くのよ」って、吹聴していました。

「スタンフォード」という響きが良いんですね。わたしは手が届かなかったけど。わ

たしが行ったのはテネシー州立大学です。でも学位はとれませんでした。一九七五年に卒業の予定だったけれど、単位が一つ不足だったんです。だから、卒業証書は持っていない、でもそのことはもう気にしないでいようと思っていました。いまさら同級生と卒業式に出られるわけじゃないし、十九歳で大学二年生のときからテレビの仕事をしていましたから。夜十時のニュースをやっているのに、門限が十一時だったのはわたしぐらいのものではないかと思えます。

「冗談ではなく、父は「ニュースは十時半に終わるんだから十一時には帰宅するように」と。本当は大学なんてどうでも良かったのです。仕事をして収入があったし、だからたった一単位足りなくて卒業できなかったことは、もう別にいいやと思っていました。でも父は、もう何年も、何年も気にしていて「オプラ・ゲイル！」（ゲイルはわたしのミドルネームです）「大学も出ないで、将来どうするんだ！」っていうんです。「でも、お父さん、わたしはトークショーの司会者なのよ。」といい返すと、「大学を出なかつたらどうやって次の職につけるんだい」というのです。

そうしているうちに一九八七年に、テネシー州立大学から卒業式のスピーチの依頼がありました。当時、わたしの番組は全国放送され、映画制作も始め、アカデミー賞の候補にもなり、自分の会社を設立したところでした。それで、大学側にいいました。「もう一単位取らせてくれないとスピーチは出来ない。父が、大学も出ていないんじゃない、成功できないというので」

というわけで、一科目履修して、レポートを提出して、学位を取りました。

父も大いに喜んでくれました。もう何があっても、学位さえあれば大丈夫だと思いま

す。

でも、父がどうして学位にこだわったのか理解できません。B・B・キングがいったように、「学ぶことのすばらしい点は、学んだことは誰にも奪われぬ」からです。今日、わたしが話したいことは広い意味で学ぶことについてです。大学を卒業することで、学びが終わるわけではないのです。今まさに始まったばかりです。

世界からは学ぶべきことがたくさんあります。世界は学校で、人生があなたたちの教室だと思えます。授業では回り道や後戻りにしか思えないものもあります。時には行き止まりでどうにもならないこともあります。そんなとき前に進む秘訣は困難を受け入れ、ありとあらゆるものから学ぶことです。

学びながら生きれば、人間として自分を高めることが出来ます。わたしたちが生まれてきた目的は、人としてさらに向上することです。より自分らしくなるためには、思慮深く、思いやりを持てる人になる必要があります。

あるリポーターの一言で、うれしかったことがあります。シカゴで新しい仕事を始めたころ、インタビュースられました。しばらくたってから、同じリポーターに会ったときにこういわれました。「あなたはぜひぶん有名になったのに変わらないわね。むしろ、もっとあなたらしくなったわね」

もっと自分らしくなるということ、それが、わたしたちが目指していることです。どんな経験からも学ぶことができるのです。学ぶことで前に進むことができます。そうやってあなたの人間性が豊かになっていきます。内なる知恵は富よりも貴重なのです。しかも、使えば使うほど増えるのです。

というわけで、今日は教訓をいくつか、いえ、三つお話ししたいと思います。よかったです。ちょっとだけ話すといいながら、延々と話す人がいますよね。聞いているあなたたちは、「あなたの卒業式じゃないのに」って思いますよね。だから、本当に三つだけ。

わたしの人生に最も強い影響を与えた三つの教訓は、思いやり、失敗、幸せ探しです。大学をやめて一年後、わたしはボルティモアで六時のニュースのキャスターになりました。さらに大きなメディアの世界で成功を収めることを目指していました。大学時代に働いていたナッシュビルのテレビ局よりもボルティモア局は大きく、二十二歳で六時のニュースを担当するのはたいしたものだと思っていました。これほどの仕事はないと。わたしは有頂天でした。バーバラ・ウォルターズ^{*16}みたいなチャンスだ、と思いました。テレビの仕事が始めてから、彼女の真似をしてきました。わたしは二十二歳で年俸は二万二千ドルでした。そのときに出会ったのは無二の親友ゲイル。同じ局の研修生でした。仲良くなると「すごいわ。信じられないわ！ まだ二十二歳なのに年俸が二万二千ドルなんて。この分なら四十歳で四万ドルよ！」と。

四十になったとき、そうならなかったことを心から喜びました。

わたしは二十二歳で年俸二万二千ドルでしたが、なにか違和感がありました。最初の兆候は、名前を変えるようにいわれたことです。ニュースのディレクターがいました。「オプラなんて名前、誰も覚えられないよ。みんながすぐに覚えて気に入ってくれそうな名前を考えたんだけど、スージーってどうだい」

*16
アメリカのテレビ界で女性としてはじめてキャスターの地位についたテレビジャーナリスト。

スージーです。とってもフレンドリー。スージーなら誰もむかつかない。スージーをよろしく。でも、わたしの名前はスージーじゃない。子どもとき自分の名前が好きじゃなかった。ランチボックスの名札にも車のナンバープレートにも、オブラなんて名前はなかった。

自分の名前は嫌だと思って大きくなったのに、いざそれを変えろといわれると、考えちゃいました。スージーってツラかって。答えはノー。なんか違う。だから名前は変えない。覚えてもらえなくても構わない。

次はルックス。時は一九七六年。まだ上司が「そのルックス、どうにかならないか」と平気という時代でした。今だったら当然、訴訟ものです。当時は「そのルックス、どうにかならないか」といってもよかったです。バーバラ・ウォルターズとはほど遠いわよね。というわけで、わたしは美容室に連れて行かれ、パーマをかけられましたが、すぐに髪が抜けてしまって、結局、頭を剃ることになりました。これですますますひどいルックスになったんです。黒人で、ハゲで、テレビに出演。お世辞にもいい画とはいえないでしょう。

でも、ハゲより辛かったのは、人の不幸を取材することです。何かしなきゃ、手を貸してあげなきゃと思っただけなのに、ただ黙って見ているだけの自分が嫌でたまりませんでした。

というわけで、ヘネシー学長の紹介にあったように、わたしは火事を取材しては、毛布を取ってきて、犠牲者に渡しました。取材で見たことを思い出しては、眠れないこともありました。

わたしはバーバラのように優雅に腰掛けて話そうとしたけれど、やればやるほど、まぬけなバーバラになっていきました。あるときは、オプラらしくやってみたり、あるときはバーバラのように上品に話そうとしたり。原稿を読み上げるのではなく、自然に話そうともしました。それで下読みをせず、その場で原稿を読みました。ハイウエー四〇号線で六人被害の玉突き事故があったときなんかは、わあ、ひどいといってしまったこともあります。

そういうふうに、原稿を読むのをやめて、自然に伝えようとしたら、知らない言葉が出てきて、読み間違えたりしました。カナダを「ケネイダ」と読んでしまった日もありました。バーバラの真似をしてもうまくいかない、自分らしくするべきだと悟りました。わたしが試行錯誤をしているとき、父はいいました。「オプラ・ゲイルや、これは一生に一度のチャンスだよ。その仕事を続けなさい。」そして、上司からは「君は夕方のニュース番組のキャスターだぞ。慈善家じゃない。自分の仕事に専念しろ」と。

そんな期待や責任が自分には重荷で、とても惨めでした。仕事を終えて、家に帰ると日記にそんな気持ちをぶちまけました。十五歳から日記をつけているので、もうかなりものになっていくんです。落ち込んで惨めな気持ちを書きながら、やけ食いをして、それが癖になりました。

キャスターは八ヶ月で首になりました。感情的で、キャラ濃すぎ。でも、テレビ局との契約がまだ残っていたので、トーク番組の司会をすることになりました。司会の椅子に座ったとたん、自分の居場所を見つけたと思いました。テレビは、楽しいだけではなく、人のためにもなるんだ。誰かの人生をよくする手伝いが出るんだと。トーク番組

が始まったとたん、やっと息を吹き返しました。自分に合っていたのです。すべてがここから始まりました。

そこから一つ学びました。自分に合った仕事をしているときは、わかるんです。毎日プレゼントをもらっているようなもので、給料とは関係ないのです。

本当にそうです。自分にふさわしいかどうかは、どうやってわかるんでしょうか。ピントくるものなんです。自分の気持ちは人生のGPSです。自分らしいことをしているか、していないか、気持ちが教えてくれます。他人の目を気にせず、自分の意志を探ることです。正しい判断をしたときは、自分の意志を探ったときで、間違った判断をしたときは、内なる声を聞かなかったときです。

自分らしくないと思ったら、やらない。それだけでも、自分を苦しめずに済みます。少しでも迷ったら、やめましょう。この先たくさん迷うことがあるはずです。そういうときは、待つのです。内なる声が聞こえるまで待つのです。

内なる声に従って、進むのです。公私ともに充実してきます。ダニエル・ピンクのベストセラー『ハイコンセプト：「新しいこと」を考え出す人の時代』でいわれているように、わたしたちは今までとはまったく違う時代に生きています。「概念の時代」と彼は呼んでいます。これまでは頭で考えてきましたが、これからは心で―右脳―で考えるようになります。論理的、直線的、規則的思考ではなく、思いやりや楽しさ、目的意識などが大切になります。本当に好きなことをやり続け、全身全霊をそれに傾ければ、生活も仕事も生き生きとしてきます。

出世街道を進もうなんて考えないことです。大きなことを成し遂げたいなら、情熱を

感じることに自分の力をささげてください。誰にでも使命があります。それを大切にしましょう。自分の心を信じてください。そうすれば、成功を手に入れられます。

成功って何でしょうか。お金があることでしょうか。お金は確かにあると良いです。お金が大切ではないと、いうつもりはありません。お金も大切ですから。わたしもお金が好きです。色々なものが買えますから。

でも、お金があるというだけでは、成功といえません。お金と生き甲斐が必要です。生き甲斐を感じられる仕事がしたいですね。それこそが人生を豊かにしてくれます。自分が信頼して大切だと思う人、自分を大事にしてくれる人に囲まれて生きたいですよ。そうやって初めて、豊かな人生だといえます。

というわけで、レッスン・ワン、自分の気持ちに従うこと。それで良いと思ったらやってみる。違うと思ったら、やらない。

次は失敗についてお話しします。凸凹のない人生を送る人はいません。誰でもつまづくときがあり、後戻りするときがあります。物事がうまくいかないときには、袋小路に追い詰められた気がします。そんなときこそ、方向を変えるべきときです。失敗したり、困難なことが起きるたびに、そこから何を学べるんだろうと自分に問いかけます。失敗して、それから学んだら初めて、次に進むことが出来るのです。そして、しっかり学んだときはもうその失敗を繰り返さなくなるのです。ですが、失敗しても学ばないこともあるでしょう。そんなときは、しっかり学ぶまで違う状況で同じような失敗を繰り返すものなのです。何度も学びなおす必要があるからです。

問題が起こるのは、内なる声に耳を貸さなかったときです。内なる声は、いつもささやくのです。それを無視すると、叫び声が聞こえてきます。いくら聞きたくなくてもその声は消えませんが、問題がなぜ起きたのかと考えるのではなく、そこから何が学べるか考えてください。そういった問題こそ学びの機会です。

エクハート・トールが書いた『A New Earth』という素晴らしい本があります。自分の内面を知ること、充実した人生が送れるということです。「逆境に逆らうな。逆境と交われ。そうすれば、解決法が見つかる。身を任せることはあきらめることではない。責任を持って行動することなんだ。」

ヘネシー学長の紹介にありましたように、わたしはアフリカに学校を作りました。スタンフォードで学んだみなさんと同じような将来を手にする機会を、南アフリカの女の子たちにも与えなかったからです。慎重に五年かけて、子どもたちにふさわしいように、立派な学校を作りあげました。すばらしい環境で学ぶことで、自分はそれにふさわしい価値のある人間だと感じとってもらいたかったからです。設計図を全てチェックし、枕でさえも自分で選びました。レンガの漆喰にもこだわりました。シーツの手触りも知っていました。九つの地域の村から生徒を選びました。それでも、去年の秋に起きた事態をわたしは予想もしませんでした。寄宿舎の舎監の一人が、性的虐待をしているとの報告を受けたのです。

おわかりだと思いますが、天地がひっくり返るほどの衝撃でした。三十分だけ声を上げて泣きました。それから、問題に立ち向かうことにしました。三十分で気持ちを切り替えたのです。今出来ることを考えようと思いました。子どものストレス障害の専門家

に連絡し、調査チームを組みました。被害にあった女の子たちがカウンセリングとケアを受けられるようにしました。それからゲイルと一緒にアフリカに向かいました。

その間、ずっと自問していました。これは何を教えようとしているのか。とても辛い経験でしたが、そこから学ぶものもたくさんありました。わたしは自分の間違いに気がついたのです。必要ないことに注意を向けていたのです。器にだけこだわって、中身がおろそかになっていたのです。

このレッスンは、人生全般にも当てはまると思います。本当に大事なのは、内面です。誠実さ、品格、美しさです。やっとわかりました。そして生徒たちも、この経験から何かを学びました。自分たちの声を持つことを知り、強くなったのです。

この困難を切り抜けた彼女たちの強さからわたしは多くをもらいました。返しきれないほどです。最後のレッスンはこの経験に基づいて話します。幸せの探し方です。このテーマでなら一日中は話せますが、そんなに長くわたしの話に付き合ってもらえませんか。よね。

幸せの探し方。重いテーマです。ですが、考えようによっては単純なことでしょうね。詩人のグウェンドリン・ブルックは自分の子どもたちのために詩をかきました。「若い人へ贈る言葉 一歩先へ」というその詩はこう結ばれています。

戦いに勝つために生きるのではなく

最後に勝利するために生きるのでもなく

今を生きる

エクハート・トールと同じように、彼女も現在を生きるべきだといっています。この瞬間に生きるのです。過去に何が起ころうとそれは変えられないのです。人生とは今を生きることなのです。

そして、彼女がいつていることがもう一つあります。何かの一部になりなさいと。人生を自分のために生きるのはやめなさい。これだけは確かです。本当に幸せになりたかったら、自分より大事な何かのために立ち上がらなければなりません。わたしたちは互いに支え合って生きています。先に進むためには、何かをお返ししなければなりません。これがわたしが人生で学んだ最大のレッスンです。幸せになりたかったら何かを返さなければなりません。

この大学の基盤にはその精神が生かされています。すでにご存知でしょうが、創立者のスタンフォード夫妻があなたたちに託した願いです。この大学の創立の経緯はご存知ですね。夫妻は十五歳の一人息子をチフスで失いました。絶望して、人目を避けて暮らしてもおかしくない状況でしたのに、悲しみと辛さを崇高な行動に変えたのです。子どもの死後一年を待たずして夫妻はこの大学のための基金を設立しました。実の息子に出来なかったことを他の子どもたちにしてあげようと考えたのです。

これから学べるレッスンは明らかです。自分が傷ついたのであれば、他に傷ついている人の傷を癒してください。痛みを感じていたら、他に痛みを感じている人の痛みをやらわらせてください。苦しい状況にいるときは、同じように苦しむ人をそこから助けだし

てください。そうすることで、自分の苦境も乗り越えられます。そうすることでお互いを思いやるすばらしい人間になることが出来るのです。

スタンフォード夫妻は親として一番辛い経験をしました。ですが、人のために何かをすることで自分たちも救われると知っていたのです。人助けが、助ける側の人間のためにも良いということは、科学的にも裏付けられています。人の役に立っていると思うことで、前向きな気持ちになります。もし、幸せになりたかったら、他人に対して良いことをするという事です。

でも、良いことをして良い気分になっただけで終わってほしくありません。良いことをすると、もっと良い人間になります。どんな分野に進もうと、他人に尽くすことをモットーに行動すれば、人生はさらに価値のあるものになり、幸せを手に入れることが出来ます。

わたしはトーク番組をずっと楽しみながらやってきました。ただ楽しいという以上の深い充足感と喜びを感じました。テレビに出るのを仕事と思うのをやめ、テレビに使われるのではなく、テレビを何かに活かせないかと考えるようになったのです。視聴者の役に立つことが出来ると思ったのです。何を成功と考えるかが変わりました。

俳優は自分の演技で芸術を高め、医者は専門知識を医療に役立てます。みなさんの多くは、博士号などの学位を今日もらうわけです。ビジネス、法律、工学、人文科学、自然科学、医学などどんな分野であろうと、世の中のために役立つという観点から人生を捉えると、単なる仕事が自分に与えられた天職に変わります。みなさんは、良い就職をするためだけにスタンフォードに来たわけではないでしょう。

みなさんはいろいろなことを学んできたと思います。世の中のために、それを他の人と分かち合ってください。わたしは、世の中のためにすることをしようといつも自分がいい聞かせています。

そろそろ、わたしが最も好きなマーティン・ルーサー・キングを引用してこのスピーチを終えることにします。キング牧師はいいました。「誰もが有名になれるわけではない」でも、わたしはみんな有名になりましたがっているように思います。

有名になると大変です。みんながトイレまでついてくるんですよ。トイレの音まで聞きたがる。そーっと音を立てないように使っても、すごい、音を聞きちゃったっていわれるんです。有名人にはこれがつきもの。そうなりたい？

キング牧師はこう続けました。「誰もが有名になれるわけじゃない。でも、誰でも偉大になれる。偉大さは、どれだけ人のために尽くしたかだ。」歴史を勉強した人なら残りがどうだったかを思い出せるはずですよ。「偉大になるのに学位はいらない。文法も間違っていて良い。プラトンやアリストテレスを知らなくても良い。アインシュタインの相対論をわからなくても良い。物理学の熱力学第二理論も知らなくて良い。必要なのは、あふれるほどの優しさと、慈愛に満ちた魂だけだ。」

間もなく、みなさんは二〇〇八年度の卒業生になります。みなさんには慈愛の心も英知もあります。それをどう使うかはみなさん次第です。学位を取りました。これからは、社会に出て学ぶのです。必ずすばらしいことが待ち受けています。

そうそう。どんなものでも分かち合ったほうが良いですね。それで卒業記念品をみな

さんと分かち合うことにしました。椅子の下をご覧ください。先ほど紹介した本が二冊あります。エクハルト・トールの本はわたしのブッククラブの推薦図書です。この本が紹介されたホームページのビデオは三千万回ダウンロードされました。もう一冊のダニエル・ピンクの本はわたしの考えが間違っていないことを教えてくれました。

本当は車をあげたいところなんだけど、椅子の下には入らなかったのです。おめでとう。二〇〇八年度ご卒業のみなさん。ありがとうございました。

[参考文献]

- Andres Albanese, *Graduation Day: The Best of America's Commencement Speeches*, Brandon Trissler, William Morrow & Co., 1998
- Steve Koskoff, Robert Vogelsang, *Speech Now! Contemporary Speeches for Study and Analysis*, Kendall Hunt Pub Co., 1991
- Stephen E. Lucas, *Words of a Century: The Top 100 American Speeches, 1900-1999*, Oxford University Press, 2008
- Colen A. Sexton, *J.K. Rowling (biography)*, Twenty-first Century Books, 2008
- 近江誠『英語コミュニケーションの理論と実際 スピーチ学からの提言』研究社出版、一九九六年
- コニー・アン・カーク(小梨直訳)『ハリー・ポッター誕生』新潮社、二〇〇一年
- マーク・シャピロ(鈴木彩織訳)『ハリー・ポッターともう一人の魔法使い』メディア・アフクトリー、二〇〇一年

中島弘『英語スピーチ・コミュニケーションのすすめ』應書房弓プレス、二〇〇一年

※本稿は、平成二十年度札幌大学翻訳研究会における研究成果の一部である。

※本稿のスピーチの翻訳の際、平成二十年度札幌大学文化学部卒業生の大沢恵介さんより貴重なご意見をいただきました。心から感謝いたします。